

かわら版



Vol.99

2021年12月14日発行

第21回手話を考えるフォーラム開催

11月20日(土) 柏にて開催された手話を考えるフォーラムが無事に終了しました。例年なら一泊二日のフォーラムですが、昨年に引き続き今年もコロナ感染拡大を予防しながら、一日で全てを終えました。

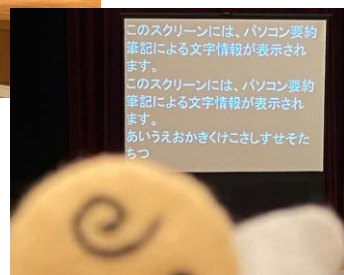
第3分科会を担当した県サ連は、『コロナ禍でのサークル活動』をテーマに県内加盟サークルの取り組みや、都サ連アンケート結果の分析から、ろう者が手話サークルに求めていることについて意見を出し合いました。コミュニケーション、情報、イベントについて現状を報告し合い、できること、できないこと、やりたいことについて学びました。



入り口には
サーモカメラと
アルコールも完備



感染対策
会場の
人数制限



全体会では渋沢茂氏講演「引きこもりとコミュニケーション」や、各分科会のまとめを聞く事ができました。そして、会う人会う人「久しぶり〜〜!!」と、笑顔がはじけた一日でした。

サークル紹介

コロナ禍、踏ん張って活動を続けていた手話サークルがありました。そこにはどんな工夫と、どんな思いがあったのでしょうか…？

成田市手話サークルこぼとの会は、通常なら土曜日昼 14 時から 16 時と、水曜日の夜 19 時から 21 時までの開催ですが、コロナ禍では活動場所の公民館の閉館時刻に合わせて 19 時から 20 時までの開催でした。(10 月からは通常開催) 公民館が開場している限り、広い部屋でサークル員同士の離隔をとる、フェイスガードの配布、マスクの着用、使用した机、椅子の消毒など、工夫をして実施してきました。参加人数は 20 名～40 名程度。

10 月 30 日 (土) には、東京 2020、パラリンピック正式種目『ボッチャ』の体験参加も。2021 年度は手話奉仕員養成講座の受講者が新規会員として数名入会しました。

当日は、市役所職員 3 名の指導のもと、成田市聴覚障害者協会と成田市手話サークルこぼとの会の合同レクリエーションとして、協会から 5 名、サークルからは 28 名の参加で実施されました。コロナ禍でなかなか集まる機会のない中、サークルからの発案で開催に至り、成田市職員の方も、休日にもかかわらず指導に来てくださったそうです。



特集 2 号
「こぼとの会」
の巻～♪



11 月 20 日 (土) には、「ネイル体験講習」を、会員で得意な方がいるのでレクリエーションとして実施しました。



成田市諏訪サークル

「こぼとの会」の発足は 1977 年から 40 年以上の歴史があり会員数は年度により変動しますが、40 名～50 名程度「成田市聴覚障害者協会」の協力のもと活動しています。活動日に来ていただければ見学も受け付けます。いきなり会員になるのは敷居が高いと思われる方は見学から始められます。見学者は随時受け付けています。

会員になると「レクリエーション班」(クリスマス会、合同旅行、その他の行事を担当して、立案実施)「新聞班」(年 3 回～4 回不定期の機関紙を制作)「学習班」(定例活動(水曜日、土曜日)の進行役)のいずれかに所属します。

年会費 2400 円で、各々責務に従い活動に従事し、定例活動ではサークル員の特技を生かして、例えば「たこ焼き作り」「茶道体験」「手話紙芝居」「プロジェクターにて手話関連動画上映」等、楽しみながら活動をしています。

県サ連ホームページ <http://www.kensaren.sakura.ne.jp/>

発行：千葉県手話サークル連絡協議会 責任者：外口晴久